

FURUTECH

Review

analog
2023 SPRING vol. 79 - JAPAN



注目！話題のモデル

Topics

大幅に進化を遂げた最新インターフェクト

NCFの効能を正統に受け継いだ フルテック最高峰RCA/XLRケーブル

厳選素材と入念な構成で評価を得てきた、フルテックの最高峰ケーブル「Lineflux」が、特殊素材「NCF」を採用し刷新された。同社が近年一貫して導入に取り組むNCFは、電源周りのプラグや端子、ケーブルインシュレーターなどを次々と生み、国内外で大ヒット中だ。その成果を信号系RCA/XLRプラグに初投入し、完全な新設計のハイクオリティプラグを開発。「Lineflux NCF」シリーズとして新登場した。ここでは自身の自宅試聴室でも「NCF効果」を積極的に採り入れている小原氏が、新旧ケーブルをつぶさに比較し、表現力の進化を探った。

Text by
小原由夫
Yoshio Ohara
Photo by 田代法生

ENCF®



FURUTECH
Lineflux NCF (RCA)

RCAインターフェクトケーブル ¥225,170 / 1.2mペア(税込、左奥)

Specifications

【Lineflux NCF (XLR)】(ケーブル部)●導体：単芯αOCC導体1.3mm×1●シールド：2層●泡線、誘電体：高級ポリエチレン●共振減衰材：シース内のナノセラミック・カーボン・ワイヤードーム・ハウジング●ケーブル径：約1.3mm、(XLRプラグ部)●導体部：純銅素材のα-導体、非磁性ロジウム・マッキのワニーズ樹脂と組み合わせ●ハウジング：マチヂマテアルハイブリッドNCFカーボン、内部は非磁性ステンレス●導体線結線方式：不干止めまたはハンダ●適応最大ケーブル径：10.0mm●適用導体ワイヤーサイズ(MAX)：CF-601M NCF(R)→燃線

FURUTECH
Lineflux NCF (XLR)

XLRインターフェクトケーブル ¥255,530 / 1.2mペア(税込、右前)

【Lineflux NCF (RCA)】(ケーブル部)●XLRと共通【RCAプラグ部】●プラグ外径：全長約φ14.0mm・適用導体ワイヤーサイズ(MAX)：CF-602F NCF(R)→燃線

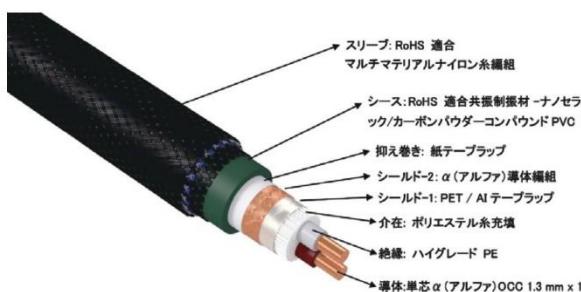
NCF導入で新開発された
入念な作りのトップエンド

各社各様のケーブルがある中で、首尾一貫したボリシーやコンセプトで完成されたモデルを私は信用し、積極的に使っていきたいと思っている。その中のひとつがフルテックで、同社が近年強力に推し進めている技術手法が「NCF(ナノ・クリスタル・フォーミュラ)」だ。その最新の成果が信号ライン伝送用にNCFを初めて導入したLineflux NCFに結集している。今回は同ケーブルのXLRとRCAを用意し、アナログ再生系で旧型(非NCFと表記)と比較しながらインプレッションをお届けしたい。

同ケーブルは、オーディオ信号用ケーブルに初めてNCFを採用したもので、アンバランスタイプのRCAと、バランスタイプのXLRがある。これは従来からの制振効果に加え、静電気対策を図るべく、コネクターの樹脂部分に特殊素材「NCF」を調合、さらにチャッキング式のプラグ外側のカーボンハウジングにもNCFを配合し新開発されているのが最大の特徴だ。



最新モデル「Lineflux NCF(RCA) / (XLR)」。新開発RCAプラグ「CF-102 NCF(RCA)」と、XLRプラグ「CF-601M NCF(R)」(オス)「CF-602F NCF(R)」(メス)は単売もされる。導体ビンはいずれもロジウムメッキで、先端の黒い部分は、注入された耐熱性NCF液晶ポリマー樹脂。RCAプラグはもちろん、XLRプラグも、ネジハンダの両方の導体結線に対応している



ケーブル導体は、連続単結晶OCC銅素材にフルテック独自の α (アルファ)プロセス処理を施した、 α -OCC導体を単芯で採用。大野篤美博士の発明した、加熱鋳型式連続铸造法「O.C.C.(Ohno Continuous Casting)プロセス」による優れた純銅素材を、理想的な形で採用している

ケーブル／プラグホルダー「NCF Booster-Signal-L」(¥17,908-税込、写真右)は、NCFブースターシリーズで最もコンパクトかつ低い位置に配置可能なベーシックモデル。左は上級モデルの「NCF Booster-Signal」(¥23,958-税込)。ケーブルやプラグ周りの振動と静電気の対策ソールとして、フォノ系周りのクオリティアップには特に有効



ケーブル／プラグホルダー「NCF Booster-Signal-L」の効能もあらざりそうだ。今回はフォノノイコイラザーランプ接続したバランスケーブルの出力端子を支える形で設置したが、帶電防止と振動抑制の双方で奏効している印象だ。このアイテムは、ケーブルインシュレーターとしての効き目はもちろん、ラック

に接続したバランスケーブルの出力端子を支える形で設置したが、带電防止と振動抑制の双方で奏効している印象だ。このアイテムは、ケーブルインシュレーターとしての効き目はもちろん、ラック

導体は同社ケーブルの定番である α プロセス処理(超低温+特殊電磁界処理)を施した α OCCの単芯で、接点部はホット／コールドとともに α OCCロジウムメッキ。さらにシールド編組にも α プロセス処理が施されている点がトップエンドモデルラミック／カーボンパウダーPVCを封入している点も見逃せない。絶縁体は高級ポリエチレン製である。

試聴は自宅システムにて新旧比較という形で実施した。つまり、従来のLinefluxと同NCF仕様とを同じ条件で接続して比較試聴したわけだ。アンバランス仕様をトーンアーム／フォノノイコイラザーランプ間に接続し、フォノノイコイラザーランプ／プリアンプ間を同バランスケーブルにて接続した。試

一聴して感じるNCF版の良さは、静謐感と繊細さだ。また、ナチュラルで、非NCF版の方はそれに比べてわずかに乾いた声や樂器の質感再現がたいそう

この静寂感には、試聴時に併用したNCF Booster-Signal-Lの効能もありそうだ。今回はフォノノイコイラザーランプ接続したバランスケーブルの出力端子を支える形で設置したが、带電防止と振動抑制の双方で奏効している印象だ。このアイテムは、ケーブルインシュレーターとしての効き目はもちろん、ラック

繊細なニュアンスをよく描写一段と生々しい臨場感を展開

LM-H、ターンテーブルはテクダス／Air Force One、トーンアーム／アコースティカルシステムズAxiom、

NCF版で聴くメル・トーメのヴォーカルは、音像定位が明瞭で輪郭の隈取りも克明。ライヴ盤特有の、臨場感とプレゼンス感もたっぷり醸し出されている。音場の3次元的な広がりも申し分なく、非NCF版はその辺りがややこぢんまりとまとまる

音に感じられ、瑞々しさで劣る印象を受けた。

NCF版で聴くメル・トーメのヴォーカルは、音像定位が明瞭で輪郭の隈取りも克明。ライヴ盤特有の、臨場感とプレゼンス感もたっぷり醸し出されてしまう布陣である。

いい仕事をしてくれるのことを長年使ってきて分かっているつもりだ。

●取り扱い：フルテック(株) TEL: 03-6451-3941 https://www.furutech.com/